



YUME いっぱい

よく考える子 しんせつな子 きたえる子

佐世保市立吉井北小学校

学校通信 36号

R03.03.12 (金)

文責 校長 堤 祐子



ふるさと吉井の宝「福井洞窟」を伝えたい～6年総合的な学習の時間～



6年生では、毎年総合的な学習の時間に福井洞窟について学んでいます。今年度も佐世保市文化財課のご指導をいただきました。そして、例年学習のまとめとして、福井洞窟を守り、伝えていくためにできることはないかと考え、その時々アイデアで形にしていきます。

一昨年度は文化財課のウェブガイド (<https://www.fukuicave.jp/wg/ja/kids.html>) にキッズガイドの動画を作成しました。昨年度は絵本とリーフレットを作成し、市内の学校や図書館に配りました。今年度は何をしようかと考えていましたが、吉井地区公民館に「福井洞窟ミュージアム」が4月に完成予定ということで、ミュージアムに飾るウェルカムボードを作成することにしました。先日、そのボードが完成し、11日(木)、文化財課の山口課長様にお越しいただき、贈呈しました。早速ミュージアム入り口に設置されたということです。



6年生の子どもたちは、これまでに同課の柳田さんに直接ご指導をいただき、福井洞窟の概要について学びました。福井洞窟で実際に発掘された実際の石器や鎌(やじり)等を見せていただいたり、弓矢体験をさせていただいたりして、大昔の先人の生活に思いを馳せ、素晴らしい遺跡が校区内にあることを誇りに感じました。そして、これらの遺産を本校の宝、吉井の宝として受け継ぎ、伝えていかなければならないという使命を新たにしました。4月にミュージアムオープンを控えますが、これからも、本校の6年生を中心に学びを繋げていこうと考えています。

吉井歴史探訪⑧ 「福井洞窟」

本校の福井地区に「福井洞窟」があります。福井洞窟は旧石器時代（約4万年前）から縄文時代（1万5～6000年前）のころ、ここで人々が生活していた痕跡をより濃く残した遺跡です。その価値から1978年、国の史跡の指定を受けました。

福井洞窟って？

福井洞窟は、佐世保を流れる佐々川支流の福井川の上流に位置します。西向きに開いた間口12メートル、奥行6メートル、高さ3メートルの岩陰状の洞穴で、稲荷神社の境内に位置しています。



昭和35年（1960年）、長崎県北部で最初の学術調査により、地表近くから旧石器時代末の石器と共に土器が発見されました。この土器は、表面に細い粘土紐が貼り付けられていたことから、「隆起線文土器」と名づけられました。こうした旧石器時代から縄文時代の発展過程あるいは縄文文化の成立に関する成果によって、昭和53年に国の史跡に指定されました。



発見したのは地元郷土史家の松瀬順一氏

昭和11年（1936年）の神社改築の際に、土砂の中から鍬（やじり）や土器が、松瀬氏により発見されました。松瀬氏は20歳のころ畑で鍬を見つけたのが動機となり、考古学の道に没頭したそうです。氏は吉井町の第1号名誉町民となりました。

何が発掘された？

遺跡からは旧石器～縄文時代の様々なものが発掘されました。石核（せっかく）、小石刃核（しょうせきじんかく）、スクレイパー、隆起線紋土器（りゅうきせんもんどき）、爪形（つめがた）紋土器、細石刃（さいせきじん）等です。実は、遺跡を歩くと、今でも石器らしきものを発見することができます。

また、有孔円盤形土製品と砂岩の石製品も発見され、非常に珍しいものと注目されています。

更に、17,700年前の「炉」や、19,000年前の石敷も発見されました。

出土品が国の重要文化財へ

令和2年3月19日、国の文化審議会は、佐世保市吉井町に所在する国史跡「福井洞窟」の「出土品」を国の重要文化財（有形文化財・美術工芸品・考古資料）に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

本文化財は、令和2年度の官報告示を経て、正式に指定されることとなりますが、旧石器時代の出土品としては全国で11例目、本市の考古資料が国の重要文化財に指定されますのは、1996（平成8）年の国史跡「泉福寺洞窟」の出土品以来、24年ぶりとなります。



（本文参考・写真出典；佐世保市HP、市教育委員会発行パンフレット「福井洞窟」）